

第128回日商簿記3級 第1問 仕訳問題類題 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	預金	受取手形	売掛金	前払金
立替	金	未収入金	仮払金	建物
支払手形		買掛金	未払金	前受金
預り	金	仮受金	貸倒引当金	引出金
売上		受取手数料	受取利息	手形売却損
仕入		水道光熱費	給料	営業費
租税公課		貸倒損失	支払手数料	支払利息

- 前年度に商品を売り上げた際の対価として受け取っていた得意先振出しの約束手形 ¥ 50,000 を銀行で割り引き、割引料 ¥ 1,000 を差し引いた手取金は当座預金とした。
- 得意先が倒産し、前年度の商品売上にかかわる売掛金 ¥ 80,000 が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は ¥ 60,000 である。
- 以前に取引先に注文していた商品 ¥ 100,000 が手元に届いた。なお、同商品の注文に際しては代金の3割に相当する額を手付金として現金で支払っており、代金の残額は翌々月末に支払うことになっている。
- 従業員に対する給料 ¥ 150,000 について、所得税の源泉徴収額 ¥ 15,000 と従業員への立替額 ¥ 45,000 を差し引き、残額を当座預金口座から従業員の普通預金口座へ振り替えて支給した。
- 店舗用建物 ¥ 1,000,000 を購入し、仲介業者への手数料 ¥ 10,000 とともに小切手を振り出して支払った。

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金預金	49,000	受取手形	50,000
	手形売却損	1,000		
2	貸倒引当金	60,000	売掛金	80,000
	貸倒損失	20,000		
3	仕入	100,000	前払金	30,000
			買掛金	70,000
4	給料	150,000	預り金	15,000
			立替金	45,000
			現金預金	90,000
5	建物	1,010,000	現金預金	1,010,000

・解説

1. 手形の割引に関する問題です。

手形は満期日に決済されますが、満期日前であっても銀行に手形を持参して一定の手数料を支払うことにより、手形を現金化することが出来ます。

手形の割引日から満期日までの利息相当分は、**手形売却損勘定で費用処理**します。なお、利息の金額は問題文で与えられることが多いですが、第 138 回の間 3や第 145 回の間 3のように自分で算定する必要がある場合は、問題の指示に従って日割計算をしてください。

■仮に「手形代金が 100,000 円、割引日から満期日までの期間が 73 日、割引率が 5%」の場合

$$100,000 \text{ 円} \times 5\% \times 73 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = 1,000 \text{ 円}$$

なお、本問は問題で列举されている勘定科目に当座預金勘定がないので、現金と預金の勘定をひとつにまとめた**現金預金勘定を使って処理**します。当座預金勘定を使ってしまった方は、勘定科目をチェックする作業を怠らないように気をつけてください。

手形の割引に関する問題は、第 109 回の間 4や第 119 回の間 1、第 125 回の間 5、第 130 回の間 5、第 135 回の間 2、第 137 回の間 4、第 138 回の間 3、第 141 回の間 1、第 145 回の間 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 債権の貸倒れに関する問題です。

債権の貸倒れは債権の発生時期によって処理が異なるので、まずはいつ発生したのかを確認しましょう。

■前期以前に発生した債権が貸倒れた場合

前期以前に発生した債権は、前期末の決算を通過しているので貸倒引当金が設定されています。よって、この債権が貸倒れた場合は、まず貸倒引当金を取り崩し、それでも足りない場合は貸倒損失で処理します。

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 1

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

☆参考・前期以前に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 2

(借) 貸倒引当金 ××× / (貸) 売掛金 ×××

(借) 貸倒損失 ×××

#### ■当期中に発生した債権が貸倒れた場合

当期中に発生した債権は、前期末の決算を通過していないので貸倒引当金が設定されていません。よって、この債権が貸倒れた場合は、全額を貸倒損失で処理します。

なお、問題によっては貸倒引当金の金額が与えられる場合がありますが、それはダミーデータです。うっかり取り崩して処理しないように気をつけましょう。

☆参考・当期中に発生した債権が貸倒れた場合の仕訳 2

(借) 貸倒損失 ××× / (貸) 売掛金 ×××

#### ■本問はどっち？

問題文の「前年度の商品売上にかかわる売掛金 ￥80,000 が回収できなくなった」から、**前期に発生した債権**が貸倒れたことが分かります。

よって、貸倒れた売掛金 80,000 円のうち 60,000 円については貸倒引当金を取り崩し、残りの 20,000 円については貸倒損失で処理します。

債権の貸倒れに関する問題は、第 101 回の問 2や第 109 回の問 1、第 116 回の問 4、第 120 回の問 5、第 139 回の問 5、第 144 回の問 4、第 146 回の問 4、第 149 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 仕入取引に関する問題です。

この問題は【前払金に関する仕訳】【買掛金に関する仕訳】に分けて考えましょう。

#### 【前払金に関する仕訳】

問題文に「**同商品の注文にさいしては代金の 3 割に相当する額を手付金として現金で支払っており**」とあるので、手付金支払時の仕訳を考えたらうで解答を導き出すと分かりやすいです。

☆手付金支払時の仕訳 (既に切られた仕訳)

(借) 前払金 30,000 / (貸) 現金など 30,000

#### ★解答①

(借) 仕入 30,000 / (貸) 前払金 30,000

ここで注意していただきたいのは、前払金勘定と仮払金勘定の違いについてです。前払金というのは、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払う場合に計上する勘定**で、一方、仮払金というのは、**なんのためのお金か決まっていはいないが、とりあえず先に支払う場合に計上する勘定**です。

本問の場合は、問題文に「**同商品の注文にさいしては代金の 3 割に相当する額を手付金として**」とあり、**なんのためのお金かはっきりしている状態で支払っている**ので**前払金勘定で処理**します。

### 【買掛金に関する仕訳】

問題文に「代金の残額は翌々月末に支払うことになっている」とあるので、通常の掛け仕入の仕訳をするだけです。

#### ★解答②

(借) 仕入 70,000 / (貸) 買掛金 70,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

ほとんど同じ問題が第115回の間3でも出題されていますが、どちらも絶対に落としてはいけない問題です。

#### 4. 所得税の源泉徴収に関する問題です。

この問題は【所得税の源泉徴収に関する仕訳】と【従業員への立替金に関する仕訳】と【残額の支払いに関する仕訳】の3つに分けて考えましょう。

### 【所得税の源泉徴収に関する仕訳】

まず「所得税の源泉徴収額 ¥ 15,000」ですが、これは所得税を給料から天引きしておいて、後で会社がまとめて税務署に納税するものなので、天引き段階では「預り金」勘定で処理します。

#### ★解答①

(借) 給料 15,000 / (貸) 預り金 15,000

### 【従業員への立替金に関する仕訳】

次に「従業員への立替額 ¥ 45,000」ですが、これは立て替えた時の仕訳をイメージしたうえで解答仕訳を考えると分かりやすいです。

#### ☆参考・立替時の仕訳

(借) 立替金 45,000 / (貸) 現金など 45,000

#### ★解答②

(借) 給料 45,000 / (貸) 立替金 45,000

### 【残額の支払いに関する仕訳】

残額については当座預金で支払うだけなので、特に問題ないと思います。ただし、本問は問題で列挙されている勘定科目に当座預金勘定がないので、現金と預金の勘定をひとつにまとめた**現金預金勘定**を使って処理します。

深く考えずに当座預金を使ってしまった方は、勘定科目をチェックする作業を怠らないように気をつけてください。

#### ★解答③

(借) 給料 90,000 / (貸) 現金預金 90,000

以上、①②③をまとめると解答仕訳になります。

所得税の源泉徴収に関する問題は、第100回の間3や第101回の間3、第102回の間4、第106回の間5、第109回の間2、第117回の間4、第121回の間2、第130回の間3、第131回の間4、第140回の間4、第142回の間2、第143回の間5、第145回の間5などでも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 固定資産の購入に関する問題です。

建物や車両、備品、土地などの固定資産を購入したさいに、不可避免的に発生した費用（付随費用）は**購入原価に含めて処理**します。本問の「**仲介業者への手数料 ￥10,000**」も、購入原価に含めて処理しましょう。

$$\text{購入原価} = \text{購入代価 } 1,000,000 \text{ 円} + \text{付随費用 } 10,000 \text{ 円} = \mathbf{1,010,000 \text{ 円}}$$

なお、本問は問題に列挙されている勘定科目に当座預金がないので、現金と預金の勘定をひとつにまとめた**現金預金**で処理します。うっかり当座預金で処理しないように気をつけてください。

固定資産の購入に関する問題は、第 100 回の問 5や第 101 回の問 4、第 106 回の問 1、第 109 回の問 3、第 113 回の問 3、第 116 回の問 2、第 118 回の問 2、第 123 回の問 3、第 129 回の問 2、第 132 回の問 3、第 139 回の問 2、第 143 回の問 4、第 145 回の問 4、第 148 回の問 4、第 150 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。